

## 冬の風物詩 津軽鉄道「ストーブ列車」が運行開始！

当市と中泊町を結ぶ津軽鉄道で12月1日から冬の風物詩「ストーブ列車」の運行が始まりました。

同日、津軽五所川原駅ホームで出発セレモニーが行われ、澤田長二郎代表取締役社長が「コロナ禍の中だが、安心安全をしっかりと確保してたくさんのお客さんを迎えたい」とあいさつ。一戸副市長は「私たちにとって津軽鉄道はふるさとを感じられるもの。多くの方

にストーブ列車の旅を楽しんでもらいたい」と話しました。

出発セレモニーでは三弦小川会による津軽三味線の演奏が行われたほか、新宮団地こども園の園児が子ども用の津軽鉄道の制服と制帽を着用して元よく手を振り、一番列車を見送りました。

ストーブ列車は3月31日まで運行されます。



出発を待つストーブ列車



「出発進行！」と合図をする園児ら

## レイルウェイ・ライター種村直樹「汽車旅文庫」1周年！

津軽鉄道津軽飯詰駅に開設されているレイルウェイ・ライター種村直樹「汽車旅文庫」が1周年を迎え、11月20日に開かれた記念式典では関係者や種村氏の遺族のほか、多くの鉄道ファンが節目を祝いました。

故・種村直樹氏は、毎日新聞記者として国鉄などを取材し、1973年に「レイルウェイ・ライター」として独立。旅と鉄道をテーマにした著作が数多くあり、鉄道ファンのバイブルとして親しまれています。2014年の種村氏の死後、読者の会のメンバーらが協力し、書齋に残った多くの蔵書が全国数カ所の鉄道関連施設に寄贈されました。

「汽車旅文庫」には寄贈された約3,000冊の鉄道書籍や資料が並ぶほか、種村氏が実際に使用していた机を設置した書齋が設けられ、運営を担う飯詰地区の住民グループ「飯詰を元気にする会」（岡田千秋会長）が毎月第3日曜日に開館しています。

レイルウェイ・ライター事務所蔵書活用委員会の辻聡代表は「多くの鉄道ファンが来館している。少しでも津軽鉄道の活性化につながれば」と話しました。

種村氏の長女・伏見ひかりさんは「父も喜んでいると思う。飯詰の方々との縁ができたので、津鉄の100周年を目指して一緒に歩んでいきたい」と笑顔で話しました。

運営を行う岡田会長は「知らない市民の方も多いので、ぜひ来てみてほしい」と話しました。



種村氏愛用の机を設置した書齋

眠ったままで受けられます！ 胃・大腸内視鏡検査



# 千葉胃腸科内科

経鼻内視鏡

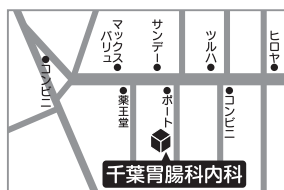
大腸ポリープ切除

ピロリ菌除菌

TEL 0172-36-7788

水・日・祝日・土曜午後休診

院長  
千葉 裕樹



弘前市石渡3-13-2  
(サンデー弘前石渡店向かい)